

平成 28 年度農業後継者特別支援事業

事業主体名 鹿児島県立農業大学校農学部果樹科

1 目的

パッションフルーツは生産面積と生産量で全国一を誇る本県の温暖な気象条件を活かした代表的な果樹である。パッションフルーツは、受粉作業に多大な労働時間を費やしており、栽培上の課題となっていた。そこで、「ルビースター」において、受粉昆虫「クロマルハナバチ」による受粉が着果性、商品性に及ぼす影響を確認する。

さらに、農大果樹科では、マンゴーを原材料とした「生キャラメル」「シャーベット」を商品化しており、消費者に好評である。そこで、これらの商品に続く、加工品を芳醇な風味であるパッションフルーツを原材料として開発する。

2 実施状況

(1) パッションフルーツへのクロマルハナバチによる受粉

パッションフルーツの開花後、しばらく柱頭が直立しているため、クロマルハナバチでの受粉が物理的に困難になる。そこで、柱頭が倒伏して、受粉が可能となる時刻である正午頃を目安に、毎日、巣箱の入口を開き、花器への飛来を促した。結実率は虫媒受粉で 71.5%，人工受粉で 67.9% となり、差はなかった。平均果実重、果実品質も明らかな差はなかった。労働時間は、虫媒受粉により明らかに短縮された。



(2) パッションフルーツジャムの製造

試作品として製造した 3 種類のジャム①丸ごとジャム②マンゴーピューレ入ジャム③たね入りジャムの評価について、農大祭の来場者の試食評価では、①と②の評価が高く、本校職員、学生およびセンター果樹部職員による試食評価では、③の評価が高く、評価が分かれる結果になった。販売価格については、90 g 入りで 350～450 円程度と評価する意見が多かった。これらのことから、パッションフルーツのジャムの商品化に向けて、収益性を考慮した結果、①丸ごとジャムと③たね入りジャムの 2 種類を新しい加工品の商品の候補とした。



3 今後の課題、取り組み

- 1) クロマルハナバチを用いた受粉法については、適正な放飼頭数と巣箱内の個体の維持方法について
- 2) パッションフルーツジャムの商品の開発に向けての具体的な取り組み

